

# 『ひかり』の実現に向けて



市川市長就任後初の定例議会となる、第5回光市議会定例会が12月2日から開会されました。冒頭、市川市長が所信表明を行いましたので、その概要をお知らせします。

世界的な金融危機のあおりを受け、日本経済の先行きにも暗雲が立ち込めています。

一方、国と地方の枠組みや少子高齢化の進行、人口減少社会の到来など時代が大きく変わる中、市政においても子育て支援をはじめとした福祉対策、地球温暖化など環境問題への対応、医療問題など安全・安心対策など重要課題が山積しています。

こうしたことから私は、「やさしさ」、「公平・公正」、対話・調和・人の輪の三つの「わ」による市政運営をキーワードとして

「やさしい ふるさと」  
「活気ある ふるさと」  
「魅力ある ふるさと」  
「誇れる ふるさと」

の創造を目指し、次の三つの生活実感プログラムを柱に市政運営に取り組んでまいります。



## 1 『人生幸せ』

### 実感プログラム

誰しも健康で幸せに暮らしたいと願う気持ちは共通です。

「おっぱい都市宣言」のまちにふさわしい、子育て世代が将来に希望を持てるよう、また、高齢者や障害者が地域の中で安心して生活できるよう、誕生と長寿を祝うまちづくりを進めます。

その先駆けとして、子どもの健康と生命を守り、子育てへの負担軽減のため、一定の所得要件のもと、小学校6年生までの子ども入院時の医療費の無料化を進めるとともに、留守家庭児童教室（サンホーム）の定員超過の解消に取り組みます。

また、高齢者や障害者の地域生活を支援するため「地域生活応援型サービス」の仕組みづくりを、関係機関と連携を図りながら、検討したいと考えています。

三島温泉健康交流施設につきましては、市民の健康づくりや憩いと交流の場づくりとして、また、市が所有する唯一の泉源を活用した事業として、議会や市民の皆様からのご意見をお伺いしながら、施設規模や利用料金等を見直し、市民が利用しやすい施設整備を行いたいと考えています。

## 2

### 『元気なまち』

### 実感プログラム

活力ある産業の創出は、人々に豊かな暮らしをもたらす、安心できる確かな未来へつながる重要な基盤であり、都市の発展の礎となるものです。

こうしたことから、市民の暮らしを豊かにし、安心して暮らせる活力あふれるまちづくりを進めるため、鉄鋼・薬品など基幹工業を中心とした産業の振興を図るとともに、中小企業などへの融資制度の充実、起業化支援や地元企業への優先発注など、地場中小企業への応援制度を確立することで、地域経済の活性化につなげたいと考えています。

また、活力ある地域社会を創出するためには、自然やまちのたたずまい、歴史、文化、そして人の営みや風土など、それぞれの地域が持つ個性を活かした施策展開を図る必要があります。

とりわけ、地域の拠点であるJR岩田駅周辺地区は、コミュニティ機能の充実も含め、人にやさしいコンパクトシティー化、また、室積公民館周辺地区については、市内で最も古い室積公民館の建て替えを検討したいと考えています。

## 『人にやさしく「わ」のまち』

～キーワードは「やさしさ」、「公平・公正」、

対話・調和・人の輪の3つの「わ」～

3

『安全・安心』

実感プログラム』

現代社会に暮らす私たちの生活は、風水害、地震などの自然災害に加え、凶悪犯罪や悲惨な交通事故、食の安全を脅かす事件・事故、さらに医師不足問題などさまざまな危険や不安に脅かされています。

こうした中、市政の優先課題の一つは、市民の健康と生命を守る地域医療を確保し、その機能を充実させることです。二つの公立病院については、病床数の削減など一定の経営改善を図りつつ、両病院の存続を前提に、地元医師会などとの連携のもと、市民への情報公開を図りつつ、議会で徹底した議論を重ね、地域医療の確保と医療環境の充実を図るための方向性を見いだしたいと考えています。

また、児童・生徒の安全・安心の確保のため、早急な学校施設の耐震化対策を進め、幼稚園・保育園の耐震化の対応も、幼保一元化の問題と合わせ、今後整理したいと考えています。

さらに、高度情報化や高齢化の進展により、消費生活を取り巻く環境は複雑・多様化し、食生活に関する市民の不安の高まりや高齢者が被害者となる事件など増加する中で、消費者の安全・安心の確保のため、(仮称)消費生活センターを設置したいと考えています。

『株式会社光市』への

転換を目指して

こうしたさまざまな施策を着実に実行し、魅力あるまちづくりを進めるためには、安定した財政基盤の確立に取り組む必要があります。

このため、地方自治体においても企業論理を導入し、行政運営から行政経営へ、言い換えれば、『市役所』から『株式会社光市』への転換を図っていく必要があると考えております。

つまり、徹底して無駄を排除し、職員一人ひとりが常にコスト意識を持ち、最小の経費で最大の効果を上げることが、行政経営の大きな目標です。

また、市民に身近で親しみやすい市役所とするため、市民の立場に立った利用しやすく質の高い行政サービスの在り方について検討したいと考えています。

さらに、市民の皆さんが安心して暮らせるまちとするため、財政状況など、徹底した情報の公開に努めるとともに、市民の皆さんの声を広く聴く機会を設け、対話によるまちづくりを進めたいと考えています。

マニフェスト

評価システムの構築

私の掲げる政策(マニフェスト)を実行するに当たり、早急に実現しなければならぬもの、また、実現にある程度時間を要するものなど、財政健全化計画や総合計画との整合を図りつつ、総合的にこの政策の検証を行うためのマニフェスト評価システムを構築したいと考えています。

なお、人と自然がきらめく「生活創造都市」の実現を目指した総合計画は、まちづくりの羅針盤であり、「ひかり未来戦略」を中心とした諸施策の積極的な推進を図りたいと考えています。

私は、公平・公正を基本理念に、誰のための、何のための施策かを政策立案の基準とし、『人にやさしく、わ』のまち「ひかり」の実現に向け、職員と一丸となり取り組んでいく覚悟です。

どうか、皆様の温かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。